

式 辞

令和三年度畿央大学入学式において、ただいま畿央大学への入学を許可された皆さん、誠におめでとうございます。

さらに、この日を迎えるにあたり、これまで長きにわたり入学生の皆さんを見守り、励まし支援されてこられたご家族および関係者の皆様方にもお慶びとお祝いを申し上げます。

ここに臨席しております学部長、学科長、事務局長をはじめ教職員一同とともに、入学式を挙行し、皆さんの入学をお祝いできることは、畿央大学として大きな喜びとするところでもあります。

畿央大学は、ここに学ぶ学生の一人ひとりが将来のありたい姿、夢の実現に向けて、大きく成長できる、素晴らしい教育の場です。この教育の場は、畿央大学の構成員である、学生、教職員、そして既に社会で活躍されている卒業生が一体となって作り上げてきたものです。

今日からは新入生である皆さんもその中に加わり、お一人おひとりが人生の夢の実現に向かって、自ら道筋をつける努力をされ、人格的に大きく成長されることを期待しています。

畿央大学では、学園の創設者冬木智子が掲げた建学の精神を教育理念としています。

建学の精神の一番目は、「徳をのばす」ということです。徳とは、人の寂しき、悲しきを察する心をもって、優しさを世界中に広めていこうとする心のありようです。

二番目は、「知をみがく」ということです。これは、人類の進歩向上は、自己の才能を最大限練磨することにより、私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養い、知的探究を行うという、「学びの姿勢」を示す言葉です。

三番目は、「美をつくる」ということです。美とは、何かを作ろうとする活動のゴールに対する最高の評価を示す言葉であり、憧れの対象となるものです。芸術作品はもとより、工業製品から、自然科学の法則、数学の定理、さらに魅力ある心や生きる姿など、具象的なものから抽象的なものまで、すべてが美の対象であり、人に感動を与えるその在り方です。

畿央大学はこの建学の精神を指針として、健康と教育の分野において高度な専門的知識と技術を有し、豊かな教養を備え、日本および国際社会に貢献できる人材の育成を教育の目的としています。

現在、日本はもとより世界各国の社会は、情報化社会からつぎの新しい社会への大きな転換期にあります。新しい社会は、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、バイオテクノロジー、仮想現実など多岐にわたる分野の新しい技術革新が、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた社会です。数年ほど前から人工知能技術の進歩による社会の変化が顕著になっていましたが、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大防止のため技術革新が加速され、日常生活もグローバルな規模で大きく変化しました。しかしながら、一方では政治経済面で国家間の関係が大きな混乱に直面しています。

このように世界規模で社会が大きく変わりつつあるときに、皆さんは大学での学びを始めようとしています。大学では、専門分野の知識と教養を学びますが、それらをどのように学ぶのでしょうか。

以下では、学びに対する姿勢と、知識の捉え方、そして教養を備えることについて、皆さんに期待することを述べます。

一番目の学びの姿勢については、「なぜか」という疑問を大切に持ち続けてください。

学んだ知識で問題を解決できるところに留まらず、なぜ解決できるのかという疑問を持ち、その理由・からくりが「分かること」を体験してください。「できる」というだけでなく、「分かる」という段階に到達するために、「なぜか」という疑問を何事に対しても持ち、常に考え探究する姿勢を持ち続けてください。

それには、「なぜか」と問う知的好奇心を大切にすることで十分です。分かることの楽しさを経験でき、同時に深く理解することができます。

分かることを重視する学ぶ姿勢は、学内での学習や研究の時だけでなく、学外実習、地域連携の取組み、国際交流など大学生活のすべての局面において持ち続けてください。

二番目は知識の捉え方についてです。

皆さんが学ぶ専門知識は、人類が獲得し蓄積しさらに創り続けている膨大な知識の中の、それぞれの分野の知識です。

専門分野の知識は、個々の要素知識をまず理解することが必要です。さらに、個々の要素が互いにどのように関係しているのかを知ることが必要です。それらの関係を頭の中で思い描き図に書いてみてください。その体系化したものをモデルと呼ぶことにします。

モデルを頭の中に思い浮かべ、体系的に捉えられるようになると、関連のある他の専門分野の知識との関係が見えてきます。個別分野と関連分野の知識を、より高い視点で見ること、俯瞰すること、も意識してください。

専門知識を、体系的に表現し、対象をモデル化し、俯瞰する視点などから捉える努力をしてください。

専門知識を学ぶことについては以上の通りですが、豊かな教養を備えるとはどういうことでしょうか？このような社会の大転換期において教養は何をどのように学ぶのでしょうか。

法律・経済・歴史や言語・文化に関する知識としての教養は大学共通科目で学べます。

しかしながら新しい社会で求められることは、社会の中で直面する色々な問題・課題に対して、解決策を見出す力、他の人を尊重し協力して働ける力です。正解がないことに対して解決策を見出し、お互いが納得できることが求められます。

それは、論理的に考え、説明し、上手にコミュニケーションを行うことができれば可能となります。論理的に考える力とコミュニケーション力は鍛えれば力を備えることができます。

そのための基礎になることは専門知識の学びと同様に、好奇心を持って自分の頭で、なぜかと深く・広く考え続けること、関連する問題課題をモデル的に捉え俯瞰して見ることです。

インターネットを介して膨大な情報が日常の社会にあふれている中で、情報を選別し、必要な情報を検索収集し、エビデンスのある情報として問題解決に役立てるためにも、論理的思考力とコミュニケーション力が必要です。

個別の能力として、読解力、すなわち文章を読み解く力と文脈を捉える力、表現技術と作文技術、そして情報処理能力を身につけることにより、新しい社会に求められる教養を備えることとなります。

畿央大学では、新しい社会が求める教養を修得していただくために、「次世代型教養プログラム」を今年度から設けました。

次世代型教養プログラムは、論理的思考力、コミュニケーション力、読解力、表現技術力を鍛える教育プログラムとして、正規のカリキュラムに組み合わせています。新入生の皆さんはこの次世代型教養プログラムをまずは必修科目として履修することで学び始めることとなります。

大学時代に、新しい教養とそれに裏付けされた能力を身につけること、培うことは容易ではありません。畿央大学における先生方との交わり、先輩、同級生や後輩との切磋琢磨、さらに学外の人たちとの協力連携など、多様な教育と研究環境の中で、入学された皆さんが、未来社会のニーズに応え続けられる能力を身につけ、高度な専門職業人として大きく成長されることを期待いたします。

本日は誠におめでとうございます。以上をもって、新入生の皆さんへのお祝いの言葉といたします。

令和三年四月二日

畿央大学 学長 冬木正彦